

〔讀者の聲〕

新聞の使命

○○生

今更ら「新聞の使命」を書いて投書せねばならぬとは、如何にも嘆はしいことであるが、最近の當地、邦字新聞の汚ない泥試合、特に日亞時報社と南亞日報社は、天下の公器であるべき、新聞の使命を忘れて、餘りにも自己中心の記事多きを以て、敢へてこの一文を草する次第である。

これは、一個人の意見にあらず、在亞邦人の大部分は、大體同様の意見であることを附加して、右二新聞の編輯者は、その旨を開き、いさか左二社の社長は自ら振り返つて、反省すべきを忠告するものである。

先づ日亞時報社から筆を進めよう。

君の社の移轉廣告は何時まで掲載するつもりか知らぬが

如何に廣告代がいらぬといつて、二週間も三週間も一ヶ月も載せる必要はないだらう。

正金、商船あたりが移轉廣告を出して、精々三日か一週間に出せば關の山だ。新聞

も載せる必要はないだらう。

我が社の移轉廣告は何時ま

で掲載するつもりか知らぬが

如何に廣告代がいらぬといつて、二週間も三週間も一ヶ月も載せる必要はないだらう。

大東亞の盟主たるべき日本人

は争つてゐる時代では無い。

大東亞の盟主たるべき日本人

は打つて一丸となり敵英米

と戰つてゐる時ではないか。

とは、如何にも行きすぎだ。

現在の日本は、そんな同業者

が争つてゐる時代では無い。

大東亞の盟主たるべき日本人

は打つて一丸となり敵英米

と戰つてゐる時ではないか。

大東亞の盟主たるべき日本人

は打つて一丸となり敵英米